

第一章

最澄と

天台宗の始まり

―祖師ゆかりの名宝

万人救済を説く『法華経』に心惹かれ、比叡山延暦寺を創建し、日本に天台宗を広めた最澄の波乱に満ちた足跡を、ゆかりの名宝からたどります。

天台六祖・
湛然のもの
と伝わる
袈裟

最澄の現存最古の肖像画

国宝
聖徳太子及び天台高僧像
十幅のうち最澄

平安時代十二世紀 兵庫一乗寺蔵
画像提供：東京文化財研究所
〔展示期間〕4月12日～5月1日



国宝 七条刺納袈裟
中国唐代八世紀
滋賀・延暦寺蔵
〔展示期間〕4月12日～5月1日

寺外初公開の秘仏。
像内に最澄自作とされる
薬師像を納める



国宝
伝教大師入唐牒

中国唐代
貞元二十一年
(八〇四・八〇五)
滋賀・延暦寺蔵
〔展示期間〕
5月3日～5月22日

中国で
発行された
最澄の
通行許可証

延暦寺の
重宝を納める

勅封唐櫃

明治二十四年
(一八九一)
滋賀・延暦寺蔵



第二章

教えのつらなり

―最澄の弟子たち

密教を取り入れて独自の展開を見せた日本天台宗。最澄の弟子たちにスポットを当て、その発展をたどります。

重要文化財 薬師如来立像

平安時代十一世紀
京都・法界寺(真言宗醍醐派)蔵

円珍の生ける姿を
そのままに



重要文化財
智証大師円珍坐像 良成作
平安時代康治二年(二四三)
京都・聖護院蔵

天台の至宝が京都に集結!

―貴重な秘仏、寺外初公開の仏像もお目見え!―

全国に散らばる

大阪と和歌山の境にある
隠れた名刹興善寺の
平安彫刻を修理後初公開

重要文化財

釈迦如来坐像 経範等作
平安時代寛治七年(一〇九三)
大阪・興善寺蔵



第三章

全国への広まり

―各地に伝わる天台の至宝

山岳信仰とも融合して花開いた天台宗の
様々な様相を、それぞれの地域に伝わる
宝物で紹介します。



彰子(藤原道長の息が
未来へ託した
地中の宝

国宝
金銀鍍宝相華文経箱

平安時代長元四年(一〇三二)
滋賀・延暦寺蔵

第四章

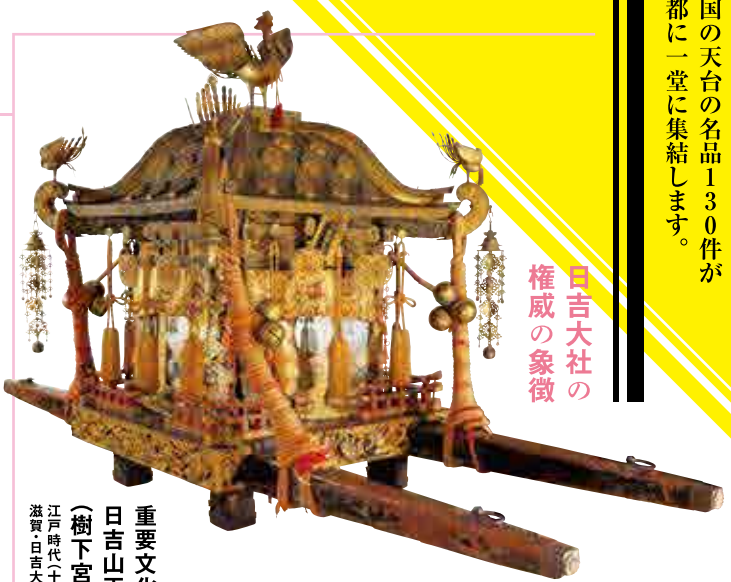
信仰の高まり

―天台美術の精華

国宝23件、 重文71件!

日本に天台宗を広め、
仏教界に新風を吹き込んだ
伝教大師最澄の1200年の
大遠志を記念し、
天台宗の始まりから、その教えの広がり、
天台思想が生んだ多様な文化、
現代へのつながりを、
全国に散らばる名宝の数々でたどる
展示会を開催します。
延暦寺の最澄ゆかりの名品から、
天台美術の粋ともいえる
様々な宝物、貴重な秘仏―。
関西だけでなく、東北、北陸、中四国など
全国の天台の名品130件が
京都に一堂に集結します。

日吉大社の
権威の象徴



重要文化財
日吉山王金銅装神輿
(樹下宮)
江戸時代十七十九世紀
滋賀・日吉大社蔵

第五章

教学の深まり

―天台思想が生んだ
多様な文化

『法華経』の思想は、法然や親鸞、日蓮など鎌倉新仏教の祖師たちを育みました。また、比叡山の鎮守である日吉大社への信仰にも特色が表れます。本章では、『法華経』の思想から多様な展開を遂げた、中世天台宗の様相をご紹介します。

第六章

現代へのつながり

―江戸時代の天台宗

元亀2年(一五七二)、織田信長の焼き討ちにあった比叡山の復興に重要な役割を果たした天海は、「東の比叡山」東叡山寛永寺を開き、関東での天台宗発展の基礎を築きました。本章では、華麗な江戸天台の遺品をご紹介します。

江戸の名所・浅草寺の本尊の由緒と
奇跡を説いた現存最古の絵巻物

重要文化財
浅草寺縁起絵巻(応永縁起)(部分)
室町時代十六世紀
東京・浅草寺蔵



菩薩遊戯坐像
(伝如意輪観音)
(鎌倉時代十三世紀)
愛媛寺蔵

リアルに可視化された
地獄図の傑作

国宝六道絵

十五幅のうち阿鼻地獄幅

鎌倉時代十三世紀 滋賀・聖衆来迎寺蔵
〔展示期間〕
衛生道場(衆合地獄幅) 4月12日～5月1日
阿修羅道場(阿鼻地獄幅) 5月3日～5月22日
画像提供：奈良国立博物館(撮影：佐々木香穂)

